

日本あちこち河川遡行記（第294回）

大阪2-2. 西除川（その1）前半 令和1年10月17日（木）曇り

新たな川に出かける。

台風19号の豪雨災害が関東、東北のあちこちで起こった。台風の北側に長く大雨を降らす雨雲が台風襲来前から伸びていた。台風がほぼ北に進み関東中部を縦断、東北南部の東部を進んだ。これらの地域の台風の北側では強い東風が長い時間吹き、南北に延びる厚い雨雲が関東をぐるりと囲む山並みと東北の脊梁山脈に当たり豪雨が長時間にわたって降ったのが最大の原因と考えられる。台風の進路は早くから予測され南北に延びる強い雨雲も確認されていたのだから、事前に降雨の予想を具体的に説明、警告する広報が不足していたと考えられる。台風の進路、勢力、降雨の強度、時間も格段に予測できるようになったのだから、過去の災害を生じさせた事例を参考に具体的な説明、氾濫、決壊の警告、避難の必要性を訴える必要がある。これからもスーパー台風、大雨が襲う可能性は十分あり、ハードでこれを防ぐのには限界がある。有効なソフトの開発、広報が求められる。氾濫、決壊に対しては四国の沈下橋（潜水橋）のような柔軟な土地の利用法を考えることも必要だ。

奈良の大和川とその多くの支流の調査を終え、大阪府内の支流の東西の除川が残っていたのでこちらに足を向ける。



01.今回調査区間位置図

まずは西除川をやっつけることにして大阪メトロ御堂筋線の「北花田」駅に向かう。天王寺から先に向かうのは小学生の時に担任の先生の家で級友数名と「西田辺」駅まで乗ったのと乗りつぶしで終点の「なかもず」まで乗った時以来である。昭和20年代から30年代の昭和町から西田辺までの地下鉄は青空の見える掘割の中を走っているような姿であった、資材、予算不足で函渠の天井部が施工出来なかったのだ。みんなで乗った時、「なんやこれ、地下鉄やあらへんやんか！」。

ホームに駅周辺の地図が有ったのでカシャ。ここから 700m ほど北西に西除川の合流点があり、その位置もよく解る。エレベータで地上に出ると早速堺市の蓋が眼下に有る。全国どこにでもある市町村の花、木、鳥のたぐいのミックス型である。



02.大阪メトロ北花田駅から大和川への合流点に向かう

03.堺市の絵柄は市の花、花木、鳥の菖蒲、つつじ、百舌鳥だ

歩道のすぐ横にはココイチ、なか卯、ガスト、KFC、くら寿し、吉野家と大手の食べ物屋がズラリと並んでいるではないか！豪華絢爛ショーや。昼には早いが一番遠くの「吉野家」に入る。注文して1分も立たないうちに牛丼がやって来る。変わってないな。店の広い駐車場の片隅には自転車の空気入れが無料でどうぞと立っている。空気入れはこれまで自転車屋以外では見たことが無い。平たんな堺市では自転車利用が多いのだろう。「美味しい、早い、安い」に「気が利く」を追加しておく。



04.牛丼屋の駐車場に空気入れが有るぞ

府道が川を越える手前で川の左岸側（南側）を西に向かう。合流点の手前の歩道橋（常盤橋）から遡行を開始する。西除川はかつてはもう少し西で本流に合流していたようで、その跡のくぼ地が阪神高速大和川線の道路に転用され工

事中である。川は予想していたよりも水量が多く河床に段差も有る。



05.西除川の跡で阪神高速大和川線の工事が進行



06.水量豊富に本流に合流

右岸側を東に進み南の方を見ると駅近くには高層マンションの塊が見える。地下鉄開通で乗り換えなしで天王寺、みなみ、本町、淀屋橋、きた、に行けるので土地価格が上昇したのだろう。

コンクリート壁の向こうに河川距離標が立っている。ゼロキロポストも有るので戻るのは面倒なので0.2キロで我慢してカシャ。



07.高層マンションが聳える北花田地区



08.久しぶりに見る河川距離標

堺市道の「万歳橋」と続いて府道28号の「萬歳橋」を見て行く。方に字が新旧で違うぞ。府道橋では歩道の改良工事中で信号待ちの間に交通整理のガードマンと暫し立ち話をする。「お休みでっか?」、「いや一年中お休みや、これから川をずーと歩いて橋を診ているんや」。年を訊かれ応えると「若いで

んなー」。

右岸側を進むと別のマンホール蓋が顔を出している。大浜に有った灯台だ。こちらの方が我が好みのデザインだ。道沿いの壁に遅咲きの朝顔が今が盛りと咲いている。朝顔の季語を変えんとなりまへんな。「朝顔や 暑さこたえて今咲きし」。



09.こちらの方が堺らしいぞ、大浜
で

灯台だ

10.今夏は暑すぎたので今頃咲いてはる

[続く]